

公益財団法人 こうち男女共同参画社会づくり財団

令和5年度 WEBアンケート調査

「性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）」に関する調査結果

2024/3/15

調査実施概要

- 【調査目的】 高知県民のアンコンシャス・バイアスについて、気づきの機会を提供し、理解を促すことでその解消を図る。
- 【調査対象】 高知県内に住む20歳～69歳までの男女
- 【対象者数】 1,000人（割付：男女各500人、年齢による割付は行っていない）
- 【調査手法】 インターネットモニターに対するインターネット定量調査
- 【調査期間】 令和5年11月2日(木)～5日(日)
- 【調査実施機関】 株式会社クロス・マーケティング
- 【注意事項】 調査内容については、
「令和4年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究」（内閣府）を参照している。
https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/seibetsu_r04.html

性別の設問で「その他の性自認」を選択した回答者数は0人だった。
図表中の「n」（Numberの略）は、設問に対する回答者の総数を示しており、回答者の構成比（%）を算出するための基数となる。
図表中の構成比は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にならないことがある。
回答が2つ以上ありうる場合（複数回答）は、合計が100%を超えることがある。
図表中のn = 30未満は参考値とする。

設問設計

■ 設問設計の概要

無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）は、誰もが潜在的に持っている思い込み。

本調査では、家庭・コミュニティ領域と職場領域での性別役割、その他性別に基づく思い込みの41項目について、自分の考えにあてはまるかどうか尋ね、続いて、性別に基づく役割や思い込みを決めつけられたり見聞きした経験があるかどうかを尋ねた。

■ 設問の構成（測定項目は次頁に掲載している）

[性別役割意識について]

測定項目に対する自身の意識

（回答肢：「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4段階）

[性別に基づく役割や思い込みを決めつけられたり見聞きした経験]

測定項目について、直接または間接的に性別に基づく役割や思い込みを決めつけられたり見聞きした経験の有無（複数選択可）

【直接】直接言われたり聞いたりしたことがある

【間接】直接ではないが言動や態度からそのように感じたことがある

【メディアによる影響】テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある

測定項目（41項目）

家庭・コミュニティ領域（17項目）	職場領域（17項目）	その他（7項目）
家事・育児は女性がすべきだ	組織のリーダーは男性の方が向いている	女性は感情的になりやすい
男性が洗濯物を干すのはみっともない	大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	女性は論理的に考えられない
家を継ぐのは男性であるべきだ	事務作業などの簡単な仕事は女性がすべきだ	男性は気を遣う仕事やきめ細かな作業は向いていない
男性は結婚して家庭をもって一人前だ	職場では、女性は男性のサポートにまわるべきだ	男性は人前で泣くべきではない
女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	女性には女性らしい感性があるものだ
結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない	男性より女性の方が思いやりがある
男性は仕事をして家計を支えるべきだ	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	女性がか弱い存在なので、守らなければならない
共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ	営業職は男性の仕事だ	
共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	
学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子の方が向いている	職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	
女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない	転勤は男性がするものだ	
男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	
PTAには、女性が参加するべきだ	女性の上司には抵抗がある	
親戚や地域の会で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ	
自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ	女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない	
実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がすべきだ	仕事で成功していても、結婚をしていない女性は何かが足りないと感じる	
デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	仕事で成功していても、結婚をしていない男性は何かが足りないと感じる	

回答者属性

上段：実数
下段：%

性別

男性	女性	その他の 性自認
500	500	0
50.0	50.0	0.0

年齢

20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳
16	27	47	68	106	138	182	165	148	103
1.6	2.7	4.7	6.8	10.6	13.8	18.2	16.5	14.8	10.3

未既婚の別

結婚している (法律婚)	結婚している (事実婚)	パートナーと 暮らしている	離別	死別	未婚
525	46	12	119	16	282
52.5	4.6	1.2	11.9	1.6	28.2

職業

企業にお勤め (正社員)	その他法人、 団体にお勤め (正社員、 正職員)	官公庁・ 地方公共 団体にお勤め (正職員)	お勤め (嘱託、契約 社員など)	お勤め (派遣社員、 パート・ アルバイト)	自営業・ 自由業	家業手伝い	農林漁業	内職	学生	無職	その他
285	61	75	49	183	71	17	17	4	7	211	20
28.5	6.1	7.5	4.9	18.3	7.1	1.7	1.7	0.4	0.7	21.1	2.0

現在の居住地

高知市	安芸広域圏	南国・ 香美広域圏	嶺北広域圏	仁淀川 広域圏	高吾北 広域圏	高幡広域圏	幡多広域圏
605	51	136	10	57	20	32	89
60.5	5.1	13.6	1.0	5.7	2.0	3.2	8.9

※各広域圏詳細

安芸広域圏（室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村）

南国・香美広域圏（南国市、香南市、香美市）

嶺北広域圏（本山町、大豊町、土佐町、大川村）

仁淀川広域圏（土佐市、いの町、日高村）

高吾北広域圏（佐川町、越知町、仁淀川町）

高幡広域圏（須崎市、中土佐町、禰原町、津野町、四万十町）

幡多広域圏（宿毛、土佐清水市、四万十市、大月町、三原村、黒潮町）

性別役割意識（全体）

測定項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4段階で自分の考えにあてはまるものを尋ねた。

※本調査結果では、『「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が高い（又は低い）』ことを『「そう思う傾向」が強い（又は弱い）』としている。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計で上位10位に入った項目は以下のとおり

性別役割意識（全体）

男性		(%)
1.	女性には女性らしい感性があるものだ	67.4
2.	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	55.2
3.	女性はや弱い存在なので、守らなければならない	44.4
4.	女性は感情的になりやすい	42.0
5.	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	41.0
6.	女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い	30.4
6.	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	30.4
6.	男性より女性の方が思いやりがある	30.4
9.	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	29.4
10.	男性は人前で泣くべきではない	29.2

女性		(%)
1.	女性には女性らしい感性があるものだ	61.2
2.	女性は感情的になりやすい	54.0
3.	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	44.4
4.	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	29.6
5.	女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い	29.2
6.	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	25.0
7.	女性はや弱い存在なので、守らなければならない	24.4
8.	共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	20.2
9.	男性より女性の方が思いやりがある	20.0
10.	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	19.4

男女両方で上位10位に入っている項目

男女ともに1位だったのは「女性には女性らしい感性があるものだ」で、男女とも6割を超えており、特に高い結果となった。また、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」「女性は感情的になりやすい」も男女で上位となった。男女ともに上位10位に入っている項目が8項目あり、「女性は感情的になりやすい」を除く7項目において男性の方が「そう思う傾向」が強い。

測定項目全体をみても男性の方が「そう思う傾向」が強く、41項目のうち35項目において女性より男性の方が高い割合を示している。逆に、女性の方が男性より高い割合を示したのは次の6項目で、このうち意識の差が10ポイント以上あったのは、「女性は感情的になりやすい」の1項目のみだった。

「女性は感情的になりやすい」（男性42.0%、女性54.0%）

「大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい」（男性13.8%、女性15.4%）

「営業職は男性の仕事だ」（男性7.8%、女性9.4%）

「自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ」（男性15.0%、女性19.0%）

「男性は気を遣う仕事やきめ細かな作業は向いていない」（男性13.8%、女性17.8%）

「女性は論理的に考えられない」（男性13.4%、女性14.8%）

測定項目全体の中で、男性の方が高い割合を示した35項目のうち、男女間で意識の差が最も大きかったのは、「女性はか弱い存在なので、守らなければならない」（男性44.4%、女性24.4%）だった。

そのほか意識の差が10ポイント以上あったのは次の6項目だった。

「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」（男性41.0%、女性25.0%）

「男性は人前で泣くべきではない」（男性29.2%、女性15.6%）

「家を継ぐのは男性であるべきだ」（男性24.8%、女性14.0%）

「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」（男性29.4%、女性18.6%）

「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」（男性55.2%、女性44.4%）

「男性より女性の方が思いやりがある」（男性30.4%、女性20.0%）

性別役割意識（シーン別）

家庭・コミュニティシーンにおいて、上位5位に入った項目は以下のとおり

性別役割意識（家庭・コミュニティ）

男性		(%)
1.	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	55.2
2.	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	41.0
3.	女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い	30.4
4.	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	29.4
5.	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳するのは女性の役割だ	26.8

女性		(%)
1.	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	44.4
2.	女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い	29.2
3.	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	25.0
4.	共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	20.2
5.	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	19.4

男女両方で上位5位に入っている項目

男女ともに1位となった「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」は、全国調査でも同様に1位。高知県では男性がより高い割合を示した。（全国：男性48.7%、女性44.9%）

また、順位変動はあるが、男女上位5位に入った5項目のうち3項目は同じ。

家庭・コミュニティシーン17項目のうち「自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ」（男性15.0%、女性19.0%）を除く16項目において、男性の方が「そう思う傾向」が強かった。

家庭・コミュニティシーンで、男女間で意識の差が10ポイント以上あったのは次の4項目だった。

「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」（男性41.0%、女性25.0%）

「家を継ぐのは男性であるべきだ」（男性24.8%、女性14.0%）

「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」（男性29.4%、女性18.6%）

「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」（男性55.2%、女性44.4%）

性別役割意識（シーン別）

職場シーンにおいて、上位5位に入った項目は以下のとおり

性別役割意識（職場）

男性		(%)
1.	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	30.4
2.	受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	26.0
3.	仕事で成功していても、結婚をしていない男性は何か足りないと感じる	25.4
4.	職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	21.4
5.	仕事で成功していても、結婚をしていない女性は何かが足りないと感じる	19.2

女性		(%)
1.	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	29.6
2.	仕事で成功していても、結婚をしていない男性は何か足りないと感じる	19.2
3.	受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	18.2
4.	仕事で成功していても、結婚をしていない女性は何かが足りないと感じる	16.6
5.	職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	16.2

男女両方で上位5位に入っている項目

男女ともに1位となった「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」は、全国調査でも同様に1位。高知県では男女に大きな差はなかったが、全国よりやや低い割合となった。（全国：男性33.8%、女性33.2%）

また、順位変動はあるが、男女の上位5位に入った項目は全て同じ。

職場シーン17項目のうち15項目において男性の方が「そう思う傾向」が強かった。

女性の方が男性より高い割合を示したのは次の2項目だった。

「大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい」（男性13.8%、女性15.4%）

「営業職は男性の仕事だ」（男性7.8%、女性9.4%）

職場シーンで、男女間で意識の差が10ポイント以上あった項目はなく、7ポイント以上あったのは次の4項目だった。

「受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ」（男性26.0%、女性18.2%）

「男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ」（男性16.0%、女性8.4%）

「女性の上司には抵抗がある」（男性14.6%、女性7.2%）

「男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない」（男性13.4%、女性6.2%）

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられたり見聞きした経験

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられたり見聞きした経験について、「直接言われたり聞いたりしたことがある」「直接ではないが言動や態度からそのように感じたことがある」「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある」「あてはまるものはない」の4つの選択肢で尋ねた。（複数回答可）

		男性				経験あり
		直接	間接	メディア	該当なし	
1.	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	15.8	29.0	20.8	44.4	55.6
2.	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	15.2	29.2	18.2	46.6	53.4
3.	女性は感情的になりやすい	13.8	25.6	21.8	48.8	51.2
4.	女性には女性らしい感性があるものだ	13.4	28.2	19.0	49.6	50.4
5.	家を継ぐのは男性であるべきだ	13.4	26.0	17.4	50.0	50.0
6.	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	17.2	22.6	18.2	50.8	49.2
7.	家事・育児は女性がするべきだ	8.6	28.4	20.6	51.0	49.0
8.	女性がか弱い存在なので、守らなければならない	13.6	26.8	17.0	53.0	47.0
9.	受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	8.6	25.2	18.6	53.6	46.4
9.	男性は人前で泣くべきではない	15.4	23.6	17.4	53.6	46.4

直接：「直接言われたり聞いたりしたことがある」の回答割合
 間接：「直接ではないが言動や態度からそのように感じたことがある」の回答割合
 メディア：「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある」の回答割合
 該当なし：「あてはまるものはない」の回答割合

		女性				経験あり
		直接	間接	メディア	該当なし	
1.	女性は感情的になりやすい	28.2	30.8	19.6	34.8	65.2
2.	家事・育児は女性がするべきだ	17.4	31.0	18.0	41.8	58.2
3.	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	13.2	27.6	26.0	42.2	57.8
4.	女性には女性らしい感性があるものだ	20.0	28.4	17.4	42.6	57.4
5.	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	16.4	28.8	17.4	43.8	56.2
6.	家を継ぐのは男性であるべきだ	16.2	27.8	17.6	44.8	55.2
7.	受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	13.2	30.0	17.4	46.0	54.0
8.	職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	14.4	29.2	16.8	47.8	52.2
9.	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	15.2	25.2	17.6	48.2	51.8
10.	共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	15.0	28.4	15.6	48.4	51.6
10.	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳するのは女性の役割だ	15.0	31.8	13.0	48.4	51.6

男女両方で上位10項目に入っている項目

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられたり見聞きした経験は、総じて男性より女性の方が高い傾向がみられた。

「女性は感情的になりやすい」（男性51.2%、女性の65.2%）と言われた等の経験は女性が6割を超える結果となった。

「家事・育児は女性がすべきだ」（男性49.0%、女性58.2%）、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」（男性53.4%、女性56.2%）と言われた等の経験も上位の結果になった。

また、男女ともすべての項目において、「直接言われたり聞いたりしたことがある」より「直接ではないが言動や態度からそのように感じたことがある」の割合の方が高い結果になった。

「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある」と回答した割合は、「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」（男性20.8%、女性26.0%）が男女差が大きかったが、その他の項目では男女に大きな差はなかった。

「直接言われたり聞いたりしたことがある」と回答した男女上位5位の項目は以下のとおり

男性		(%)
1.	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	17.2
2.	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	15.8
3.	男性は人前で泣くべきではない	15.4
4.	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	15.2
5.	女性は感情的になりやすい	13.8

女性		(%)
1.	女性は感情的になりやすい	28.2
2.	女性には女性らしい感性があるものだ	20.0
3.	家事・育児は女性がすべきだ	17.4
4.	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	16.4
5.	家を継ぐのは男性であるべきだ	16.2
5.	女性はか弱い存在なので、守らなければならない	16.2

男女両方で上位5位に入っている項目

「直接ではないが言動や態度からそのように感じたことがある」と回答した男女上位5位の項目は以下のとおり

男性		(%)
1.	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	29.2
2.	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	29.0
3.	家事・育児は女性がするべきだ	28.4
4.	女性には女性らしい感性があるものだ	28.2
5.	女性がか弱い存在なので、守らなければならない	26.8

女性		(%)
1.	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	31.8
2.	家事・育児は女性がするべきだ	31.0
3.	女性は感情的になりやすい	30.8
4.	受付、接客・応対（お茶だしなど）は女性の仕事だ	30.0
5.	職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	29.2

男女両方で上位5位に入っている項目

「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある」と回答した男女上位5位の項目は以下のとおり

男性		(%)
1.	女性は感情的になりやすい	21.8
2.	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	20.8
3.	家事・育児は女性がするべきだ	20.6
4.	女性は論理的に考えられない	19.6
5.	職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方が良い	19.0
5.	女性には女性らしい感性があるものだ	19.0

女性		(%)
1.	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	26.0
2.	女性は感情的になりやすい	19.6
3.	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	18.6
4.	女性がか弱い存在なので、守らなければならない	18.4
5.	家事・育児は女性がするべきだ	18.0
5.	男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	18.0

男女両方で上位5位に入っている項目

「アンコンシャス・バイアス」という言葉について

「アンコンシャス・バイアス」について、「どのような意味か知っている」と回答した人は3.8%、「聞いたことはあるが、意味までは知らない」と回答した人は12.2%、「知らない」と回答した人は84.0%。

言葉の認知度（「知っている」「聞いたことがある」と回答した人の合計）は16%にとどまった。

		n=	知っている+聞いたことがある 計 (%)			知っている+聞いたことがある 計
			どのような意味か知っている	聞いたことはあるが、意味は知らない	知らない	
全体		1,000	3.8	12.2	84.0	16.0
性別	男性	500	5.0	13.8	81.2	18.8
	女性	500	2.6	10.6	86.8	13.2
年代別	20代	43	2.3	14.0	83.7	16.3
	30代	115	6.1	11.3	82.6	17.4
	40代	244	4.1	13.5	82.4	17.6
	50代	347	2.9	10.1	87.0	13.0
	60代	251	4.0	13.9	82.1	17.9
性年代別	男性 x 20代	6	16.7	33.3	50.0	50.0
	男性 x 30代	35	5.7	22.9	71.4	28.6
	男性 x 40代	97	5.2	16.5	78.4	21.6
	男性 x 50代	196	4.1	9.7	86.2	13.8
	男性 x 60代	166	5.4	14.5	80.1	19.9
	女性 x 20代	37	10.8	89.2	10.8	10.8
	女性 x 30代	80	6.3	6.3	87.5	12.5
	女性 x 40代	147	3.4	11.6	85.0	15.0
	女性 x 50代	151	1.3	10.6	88.1	11.9
	女性 x 60代	85	1.2	12.9	85.9	14.1

※n=30未満は参考値。

自由回答より

この1年の間に、男性だから・女性だからという理由で偏見だと思われることを言われたり、受けたりした経験について

【家庭・コミュニティ】

女性は料理が出来なくてはならない、女性は育児をしなければならない。(20代女性)

早く子どもを持つべきと言われる。(20代女性)

食事の取り分けは女性がするものだと言われた。(20代女性)

職場で、男ならば女性と結婚して子どもを作って1人前だと言われた。(20代男性)

義理母に女性だから子どもの面倒は父親ではなく母親が見るべきと言われた。(30代女性)

女性だから料理は出来るべき、子育ては母親がすべきと常日頃言われてます。(30代女性)

元彼から家事は女性の仕事だと言われた。(30代女性)

家庭内で男性は外で仕事、女性が家事するのが普通だと思われてる。(30代女性)

共働きだが、家事の負担が大きい。(30代女性)

既婚だと子どもを作るかもしれないからと不採用になったことがたくさんある。(直接言われたわけではないが、面接時子どもをつくることを考えているかという質問をうけた) (30代女性)

女性だからというか、母親だから子どもが熱を出したら仕事を休んで当たり前という雰囲気がある。(30代女性)

地域の人から結婚して子どもを持たないと一人前ではないと言われている。(40代男性)

女は結婚して子どもを産むのが普通だと言われた。病気で子どもを作るのが困難な状況でも理解してくれなかった。(40代女性)

夫は働いて家庭にお金を入れるものだという趣旨のことを妻にしょっちゅう言われる。(40代男性)

男のくせに仕事の負荷を嫁さんに任せてパート兼主夫業をしているの、みたいなことを言われた。(40代男性)

男性は仕事を頑張れと言われた。(40代男性)

男だからしっかりして女性を支える存在でいなければならない。(40代男性)

職場で子どもを病院に連れていくために時間休を申請した際に母親は？と聞かれたこと。(40代男性)

義父から私の学歴や女の子の子どもが理系大学への進学はお金の無駄使い。(40代女性)

父から会食の場で女は一步引いて男を(旦那を)立てるべきだと言われた。(40代女性)

飲み会の席で、女性が料理を取り分けたほうが良いと言われた。(40代女性)

義両親の介護は嫁の仕事だと言われたことがある。(40代女性)

結婚して一人前ということを日常茶飯事です。(50代男性)

職場で、女性は家庭があるから早く帰ってよいとの風潮がある。男性だって早く帰って家事・子育てに参加したい。(50代男性)

男性だから正社員であるべきだ、と言われました。(50代男性)

食事代を男だから、女性の分まで出すのは当たり前だと言われた。(50代男性)

食事の準備、掃除、洗濯は女がするものと態度であらわす。(60代女性)

テレビドラマとかでほとんど家事は女性がしていることが多い。(60代女性)

喪主は長男がするのがあたりまえ！(60代男性)

女性だから、男性に従わなければならない。(60代女性)

地域の集まりで会場の準備、後片付けは女性がするべきという雰囲気はずっとある。(60代男性)

地域の秋祭りで女性が神輿を担ぐことや中心的な役割にはなれないと言われているのを聞いたことがある。(60代男性)

地域の役員を決める時、男性が推薦され当選するが実務はその人の奥さんがやっている。(60代女性)

介護は男性には厳しいと家庭内で言われた。(60代男性)

【職場】

職場でのお茶出し、忘年会等での男性への酒つきなどを会社から強要させられている。(30代女性)

職場で女性だからという理由でお茶出しをお願いされることがあった。また、女性管理職について、女性だから細かいといった部下からの発言を聞くこともあった。(30代女性)

男だから力仕事させられたことがある。(30代男性)

職場で、対面する人から、男のクセに、という言われ方をされた。(40代男性)

男しかいない会社なので自分がお茶を出す「女性はいないのか」と言われた。(40代男性)

職場で力仕事は男性がやるように言われている。(40代男性)

仕事内容ですぐに男性女性の仕事に振り分けられる。(40代男性)

お給料が、男性と女性では違いが大き過ぎる様感じます。(40代女性)

同期入社男性は仕事のできるできないに関わらず、勤続年数のみですべて役職についています。学歴も同じ大卒であるにもかかわらず、自分は25年勤務している会社で平社員です。部署の閉鎖により、異動をする際に、すべて同期男性の部下になる形でした。理不尽に感じ、退職しました。(40代女性)

男性から昇級させている。(40代女性)

仕事上で前を切って意見を言うと女のクセに黙ってろ！と、言われ意見が却下され、最近、仕事に対しやる気が失せた。(50代女性)

接客のお茶は女性が出すべきだと言われた。(50代女性)

男性と比べて女性がある一定の年齢になると昇給対象から外されてしまうこと。(50代女性)

女性だからと言う利用でトイレ掃除がある。(60代女性)

【その他】

女の子だから上品に笑いなさいと教師に言われたことがある。(20代女性)

女のくせに気が利かないと、接客の仕事をしていた時に客から言われた。(30代女性)

男性上司からもっと女ならではの気遣いを持ってと言われました。(40代女性)

男は人前で泣いてはならない。(40代男性)

女性は、土木現場に来るなと言われた。(40代女性)

機械は男性の方が詳しい。(40代女性)

職業訓練校で化粧をしなさいと言われた。(50代女性)

利用したタクシーの運転手が、「女の人は、地図が読めない」や「車の運転が下手」だと言った。(50代女性)

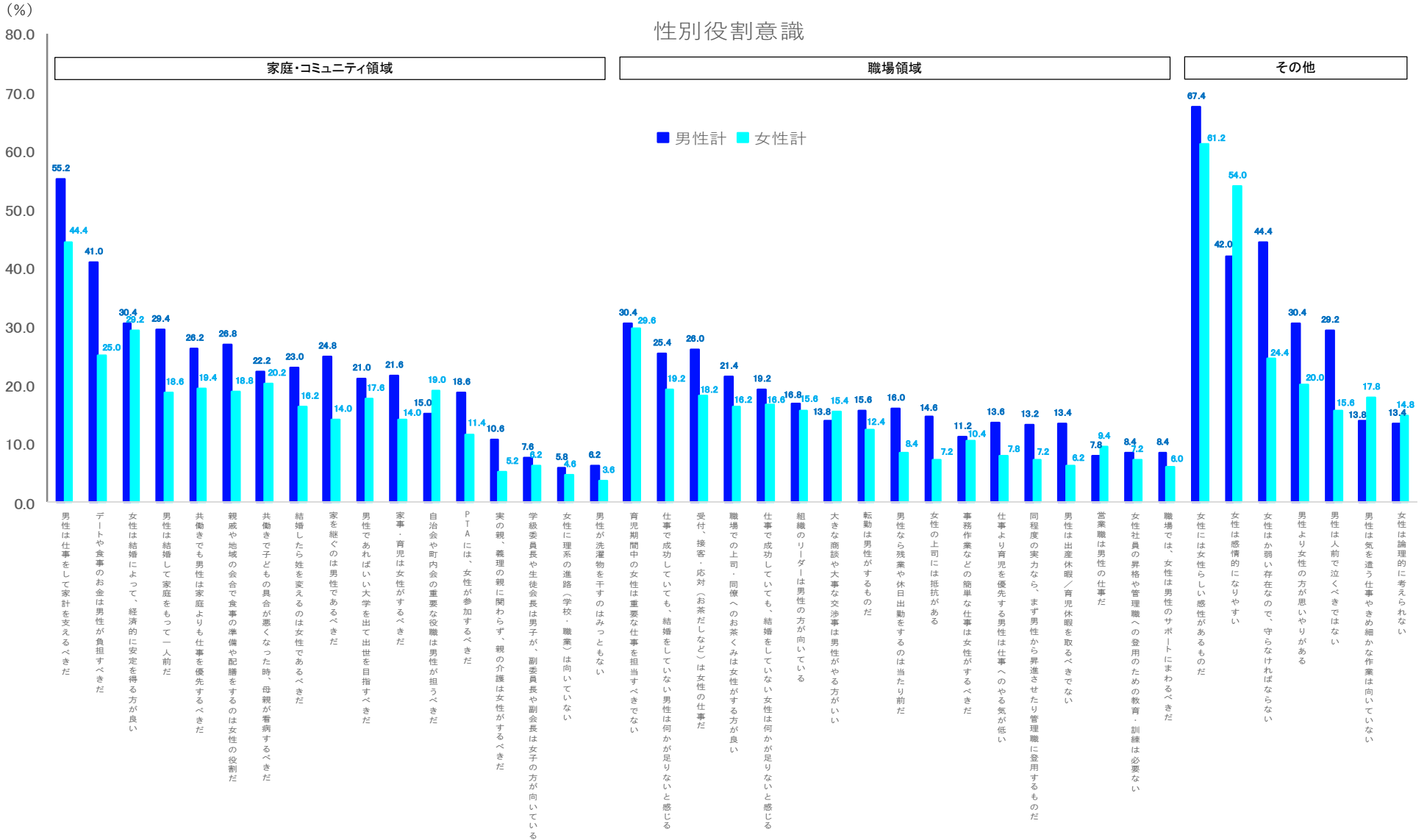
まとめ

今回の調査で、41の測定項目に対する自身の意識について、1つでも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は、回答者全体の86.3%という結果であり、多くの人に性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）があるということがうかがえた。特に、「女性には女性らしい感性があるものだ」「女性は感情的になりやすい」などの思い込みが強く存在していることが示唆された。家庭・コミュニティや職場においても、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」といった性別によって個人の役割や行動を固定化する性別役割意識が根強く存在しており、その意識は男性の方により高い傾向がみられた。一方、性別に基づく役割や思い込みを決めつけられたり見聞きした経験については、総じて女性の方が高い傾向がみられた。また、「直接言われたり聞いたりしたことがある」より「直接ではないが言動や態度からそのように感じたことがある」と回答した割合が男女ともに高いという結果になった。

今回の調査では、男女共同参画社会の実現に向けて、固定的な性別役割意識の解消などの取り組むべき課題がより明らかになった。性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）への気づきを促し、互いを尊重し、いきいきと自分らしく活躍できる社会の実現に向けて、今後も様々な啓発や研修事業等に取り組みたいと考える。

※本調査においては、男女の均等割付は行っていますが、年代に関しては均等割付を行っていません。この点を踏まえ、全国調査と高知県との年代別の比較分析は行っておりません。結果の解釈に際しては、この制約を考慮いただき、ご留意いただければ幸いです。

別添資料1 全項目の男女別スコア【意識】



（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計スコア）

領域ごとに全体値の高い順に並べ替え

別添資料 2 全項目の男女別スコア【経験】 ※複数回答可

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられたり見聞きした経験

家庭・コミュニティ領域

職場領域

その他

